

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

2021/7/26

りそなホールディングス 市場企画部

○概況

- ◆ 7月8日に公表した戦略的見直しを受け、フォワードガイダンスを変更
- ◆ その他政策金利や量的緩和手段等の金融政策については据え置き
- ◆ ECBの金融緩和を継続する姿勢が鮮明となっているが、次回会合(9月9日)では資産購入プログラムの運営方針に注目

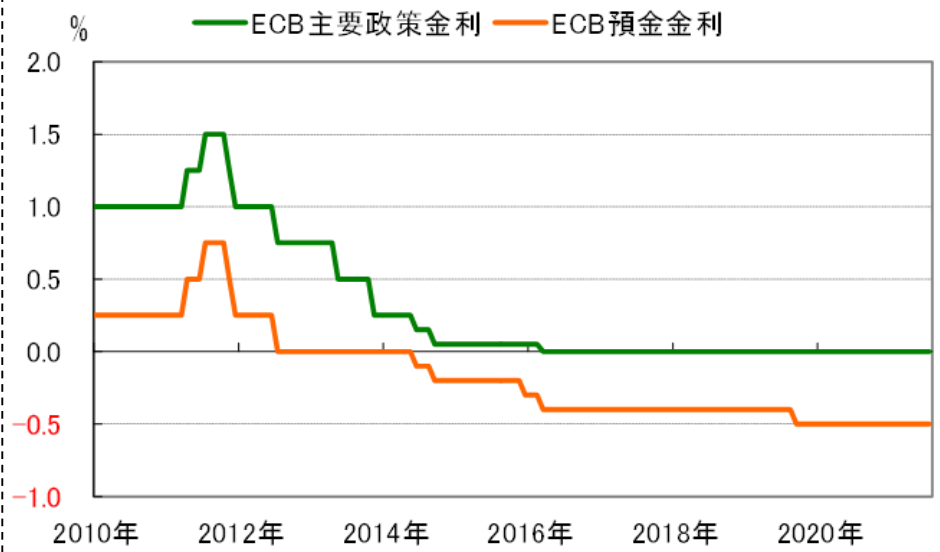
✓ 7月22日に開催されたECB(欧州中央銀行)理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置いた。また、パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)やTLTRO-Ⅲ(条件付き長期リファイナンスオペ)の規模及び期間を維持した。**

✓ 今回フォワードガイダンス(将来の金融政策方針)について、7月8日に行われた戦略的見直しの結果を受け、従来の「インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する」から、「**(1)インフレ率が予測期間(現在は21-23年)の終わりよりもかなり前に2%に達し、(2)残りの予測期間は持続的に2%に達すると予想するまで、(3)また基調的なインフレ率が中期的な2%の物価安定と一致するよう十分に進展していると判断するまで、現状ないし現状を下回るレベルで政策金利を維持する**」と3段階の、従来より強力な文言へと変更された。

✓ ラガルド総裁は理事会後の会見で、ユーロ圏の経済の回復について順調に進んでいるとしつつも、足元感染拡大中のデルタ株への懸念を示した。また足元のインフレ率の上昇については一時的とし、中期的には依然として目標を大幅に下回る可能性が高いとした。また今回のフォワードガイダンスの変更は全会一致ではなかったとも述べた。

✓ 今回のフォワードガイダンスの変更については事前にラガルド総裁が示唆していたこともありサプライズはなく、マーケットの反応は限定的となった。FRBがテーパリングの議論を開始するなかで、ECBは強力な金融緩和を継続する姿勢が明確となった。**次回9月9日の会合では今回言及のなかった資産購入プログラムの運営方針が注目される。**

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し(6月時点)】

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	+4.6	+4.7	+2.1
3月時点の見通し	+4.0	+4.1	+2.1
HICP(消費者物価)	+1.9	+1.5	+1.4
3月時点の見通し	+1.5	+1.2	+1.4

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。